



こころ充ちる、 収納術。

生活リテラシー
LITERACY

企画監修／積水ハウス株式会社 住生活研究所

#46 暮らしを豊かにする収納

住まいと暮らし。その永遠のテーマの一つが収納ではないでしょうか。何を、どこに、どう仕舞うか。すっきりと隠すか、あえて出し並べてわが家らしく魅せるか…。収納への想いや悩みは尽きることなく、ライフスタイルやライフステージによっても変わってきます。

収納に「正解」はなく、片付かないとネガティブに捉えるより、モノの仕舞い方を楽しむ。そんなスタンスが大切かもしれません。

今回は住生活研究所のノウハウを活かした様々な収納術をご紹介します。

隠す& 魅せる。 リビング収納

家族みんなが過ごす場所だから、いろんなモノが一緒に集まってくる。それがリビング収納の悩ましさです。いつも散らかりがちで片付きにくい、来客があれば大慌て、雑多なモノが溢れやすいのに仕舞う場所がない。そんな想いに共感する人も多いのではないでしょうか。

リビング収納の第一のポイントは、さっと仕舞えて雑多なモノを目隠しできる収納スペースの確保です。たとえば、グランドメゾン（以下GM）でプランに合わせて提案しているのが「リビングクローク」。リビング脇に独立した収納スペース（リビングクローク）を設けることで、子どものおもちゃや生活用品、文具・書類ファイル類、掃除用品などがまとめられ、扉を閉めればリビングをすっきりと整えることができます。

そんな「リビングクローク」の役割を暮らしはじめてから考える場合は、チェストなどの収納力のある家具をリビング内に置くのがおすすめ。細々としたモノを納められる引出しや、少し

背の高いモノを仕舞える扉付きキャビネットなどを組み合わせるタイプなら、使い勝手が良くて便利です。そしてリビングに置くことを考えれば、デザイン性にこだわることも肝心。インテリアとのコーディネートイメージしながら、わが家らしくて素敵なチェストをセレクトしたいものです。

第二のポイントは、一つ目の「仕舞う・隠す」とは逆の「魅せる」収納です。もちろん、モノの存在を排除したミニマムな空間も素敵ですが、生活感が薄れて無機質な印象にもなりがち。わが家らしさのあるリビングづくりには、この「魅せる」を意識することが大切になります。

代表的なのはオープンシェルフの活用です。アートフレームやお気に入りの雑貨などをディスプレイしながら、雑多なモノ

1 ソファ背後に設けた「リビングクローク」。扉を開めればスッキリとした壁面になり、くつろぎ感を保ちながら、大容量の収納スペースを提案しています。（GM上原レジデンス／東京都）

2 置き家具のチェストはインテリアのアクセントとして「リビングの顔」に。天板の上のディスプレイにもこだわれば、「仕舞う・隠す」と「魅せる」が素敵に両立できます。

3 家族の本を集めてリビングをファミリーライブラリーに。並ぶ本からそれぞれの興味や関心ごとが伝わり、会話が弾んだり刺激を受けあったり。新たな世界も広がります。

4 大きな壁面にワイドなオープン棚を設けた「魅せる」収納。上段はディスプレイエリアに、下段は床座のワークスペースに仕上げています。（GM伊丹池尻リテラシティ／兵庫県）

5 子どものおもちゃは統一感のあるボックスを使ってカウンター下に納めれば見た目もスッキリ。子どもの手が届く低い場所だからお片付けの習慣も身につけやすくなります。



5



4



3



2



1

子どもたちのスニーカーやアウトドア用品、雨具や食材宅配のボックス…。帰宅して玄関ドアを開けた瞬間に、ブルーな気分になることはありませんか。

すっきり整える。玄関収納

ツチンからアクセスしやすい、大型のパントリーのイメージです。また、日常使いの食器やフライパン、鍋などはキッチンワイークトップ下へ収納。LD側から目につかず、必要な時にさっと出しやすいのも魅力です。最近ではワイークトップの奥行きが深くなっているため、引出し収納のタイプにすると手前から奥まで見渡しやすく、出し入れもスムーズで使い勝手が高まります。LDKワンルームの暮らし方が一般的になっても、キッチンは日々の食に関わる作業の場所に変わりはありません。美しさを高めるだけでなく、使いやすさ・心地よさを大切にしたい収納を思い描くことが重要です。

ちよく外出・帰宅できるようにスッキリと整えておきたい場所ですよね。

一般的に玄関の収納と言えば、靴の収納に目を向けがちですが、これがちょっととした落とし穴。玄関まわりに溢れやすくて、わが家の顔”を乱すのは、意外にも靴以外のモノたちなのです。

一度ご自宅の玄関まわりを見渡してみてください。大きさやカタチ、色などがバラバラなモノが多く目に入ってくるのではないのでしょうか。収納の工夫が玄関を上手に整える鍵となるのです。

具体的におすすめなのが、多種多様なモノをまとめて収納できる「シューズクローク」です。収納内部の床を玄関土間と連続して仕上げることで、出入りがスムーズだけでなく、靴をはじめ雨具やアウトドア用品などの土汚れが気になるモノも納めやすく、大きなモノ重たいモノの運び入れもしやすいのが特徴。扉を閉めれば目隠しも万全で、急な来客時にも散らかっているものをサッと仕舞える心強いスペースとなります。

マンションの限られた広さの中に「シューズクローク」を設け

るのは、一見スペースの無駄遣いと思われるかもしれませんがじつは逆です。コンパクトな玄関に下駄箱や大きな玄関収納を配置すると圧迫感が出て窮屈な雰囲気になりがちですが、「シューズクローク」なら扉一枚だけのシンプルな表情。空間をスッキリと見せながら、内部は天井いっぱいまで収納スペースとして活用できます。

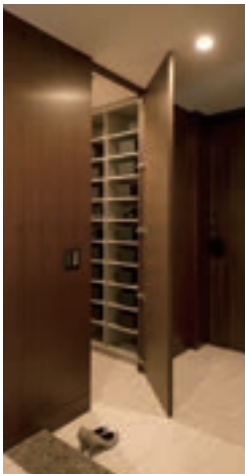
ぱっと見渡しやすく。ファミリー収納

家族の持ちモノの中で最も大きなポリウムを占めるのが衣類だと言えるでしょう。季節ごとの洋服類をまとめて仕舞える家族共用の「ファミリークローク」があれば、それぞれの個室での衣類収納を最小限に抑えることも可能です。

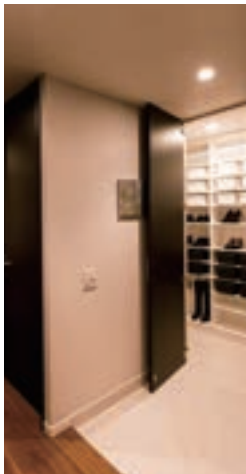
収納スペースの広さに余裕を持たせておけるのが理想ですが、家族ごと・季節ごとに収納場所を区分するなど、ぱっと見渡しやすくしておくのがポイント。洋服選びはもちろん、衣替えのストレスも軽減されます。パッ



季節ごとの靴類はもちろん、雨具やおもちゃ、ゴルフバッグなどもまとめて収納可能。外出用の上着やお散歩グッズなどを納めておけば、ちょっとしたお出掛け時に便利です。



「シューズクローク」の扉を周囲の壁と同じ仕上げにすれば、閉めた時にスマートな雰囲気。収納があること自体に気づかないスッキリさです。(GM上原レジデンス/東京都)



玄関からダイレクトに出入りできる「シューズクローク」。内部に見渡しやすいオープン棚を設けても扉を閉めれば雑然さが気になりません。(GM丸の内スタイル/愛知県)



右／「キッチンクローク」はストック食品や日用品などがまとめて収納でき、分別ゴミストッカーも目立たず置くことができます。



左／ワークトップやカウンター下の収納は引出しタイプがおすすめ。見渡しやすく、出し入れしやすいので日常使いに便利です。

6 背面の大きな壁をキャンバスに見立てて、お気に入りのキッチンツール類をディスプレイ。並べるモノのテイストを統一することで、わが家らしく美しい眺めが生まれます。

7 壁・天井に馴染む白いキャビネットを部分的に配置し、圧迫感を抑えながら収納量を確保。ダイニング家具と揃えた木製のオープン棚と小物類が際立つようにしています。

8 奥のカウンタートップは調理家電などの出し並べ収納スペース。グレイッシュなトーンにあわせて機器類などをセレクトされているのが上質感的のポイントになっています。

9 キッチン直結で設けた「キッチンクローク」内に冷蔵庫を配置。来客時などに冷蔵庫を開け閉めしても視線が気にならず、扉なしのクロークなので普段のキッチンワークもスムーズにこなせます。



8 奥のカウンタートップは調理家電などの出し並べ収納スペース。グレイッシュなトーンにあわせて機器類などをセレクトされているのが上質感的のポイントになっています。

7

美しく心地よく。キッチン収納

楽しく会話しながら夕飯の準備をしたり、みんなで一緒に料理や後片付けをしたり。そんなライフスタイルを好む家族が増え、最近ではキッチンもオープンスタイルが主流になってきました。じつはこの傾向はキッチンのインテリア性アップにつながるのと同時に、収納面にも大

は統一感のあるカゴやボックスなどに入れて棚の中に収納。グリーンの鉢などをバランスよく配置すれば、豊かな生活感に彩られたリビング収納が完成します。

モノを整理する「仕舞う・隠す」収納、ディスプレイ感覚でお気に入りのモノを出し並べる「魅せる」収納。この二つを意識すれば、収納は暮らしを楽しむテーマに変わっていきます。飾るモノを季節で入れ替えたり、わが家らしいテーマを持つてリビングの風景を思い描いたり。それはきつと素敵な時間になるのではないのでしょうか。

楽しく会話しながら夕飯の準備をしたり、みんなで一緒に料理や後片付けをしたり。そんなライフスタイルを好む家族が増え、最近ではキッチンもオープンスタイルが主流になってきました。じつはこの傾向はキッチンのインテリア性アップにつながるのと同時に、収納面にも大

これはリビング収納でお伝えした「仕舞う・隠す」と「魅せる」の考え方と同じ。まずはキッチンの「魅せる」収納のポイントをご紹介します。

オープンキッチンではLD側から見た背後の大きな壁が目立

な影響を与えています。元々キッチンまわりには目立たせたくないモノが多く、以前はクローズスタイルでキッチン空間自体を見えにくくしていたり、対面スタイルでも吊り戸棚などで適度に目隠ししながら収納スペースを確保していました。それがオープンキッチンの人気によって、目隠しする一方の収納から「美しく見える」収納へと考え方が変わ

りつつあります。

たとえば、最近は調理家電も多彩でいろんな種類を使いこなす人が増えていますが、その家電機器自体のデザインへのこだわりが高まっています。また、丁寧に暮らす生活スタイルが目され、日常的に使う調理道具の質や姿を吟味する傾向にもあります。オープンキッチンでは、それらのキッチンツール類も含めて「美しい風景づくり」を叶える収納が大切になってきたと言えるでしょう。

さて次は「仕舞う・隠す」キッチン収納のポイントです。

キッチンツールに細かくこだわって整えても、やはりキッチンには見せたくないモノが多くあります。

たとえば、冷蔵庫。最近では扉のデザインも多彩で美しさで選ぶこともできるようになりましたが、開け閉めする時に中が見えるのを気にされる人も少なくありません。そこで解決策となるのが、キッチン脇に設ける「キッチンクローク」。キッチンとの間に袖壁を設けて適度に目隠しできるバックヤードスペースで、その中に冷蔵庫を納めてしまう方法が有効です。調理家電やストック食品などもまとめて収納できるのも効率的。キ

つので、そこを「魅せ場」と捉えて活かすことが有効です。オープン棚を設けて、こだわりのキッチンツール類を並べたり、ところどころに雑貨をポイントづかいすれば、絵になるキッチン収納が完成します。

収納量を高めたい場合は、扉付きキャビネットを壁に部分配置するのがおすすめ。壁全面をキャビネットで覆うと圧迫感が強まって、「魅せ場」感が薄れてしまうので注意しましょう。

さて次は「仕舞う・隠す」キッチン収納のポイントです。

キッチンツールに細かくこだわって整えても、やはりキッチンには見せたくないモノが多くあります。

たとえば、冷蔵庫。最近では扉のデザインも多彩で美しさで選ぶこともできるようになりましたが、開け閉めする時に中が見えるのを気にされる人も少なくありません。そこで解決策となるのが、キッチン脇に設ける「キッチンクローク」。キッチンとの間に袖壁を設けて適度に目隠しできるバックヤードスペースで、その中に冷蔵庫を納めてしまう方法が有効です。調理家電やストック食品などもまとめて収納できるのも効率的。キ

デンタル用品や化粧品類はミラー裏のキャビネットに。カウンタ下は引出し収納で見渡しやすく。



収納量たっぷりの洗面化粧台。モノがスッキリと納まると空間の美しさが引き立ちます。(GM藤が丘ヒルズ／愛知県)



家族ごとに下着類を分けるなら引出し収納が便利。背の低い子ども用は手の届きやすい下段に。(GM猫洞通ヒルズ／愛知県)



入浴シーンに必要なモノをまとめて納められるシステムチックなキャビネット。(GM新梅田タワー／大阪府)



洗面室に集まる家族4人分のモノを並べると約3畳の広さに匹敵。住生活研究所では常にリアルな生活調査に基づいて暮らし心地を高める提案を行なっています。

日々使い勝手良く。サニタリー収納

洗顔や歯磨き、脱衣や入浴準備、メイクや洗濯…。洗面室は日々の暮らしに欠かせない空間ですが、そこに割けるスペースは決して広くはありません。多用途で使用頻度が高いので、モノが多く集まって溢れやすく、収納の工夫次第で暮らしやすさが大きく左右されます。

実際の調査で家族4人分のモノを並べてみると、なんと約3畳分に匹敵。洗面化粧台にまとめて収納するのが効率的です。収納棚を内蔵したミラー扉や洗面カウンタ下にキャビネットがあるタイプがおすすめです。とくにカウンタ下の収納は、高さのあるモノが納められ、奥まで見渡しやすいつり出しタイプが便利です。ただし、椅子に座ってメイクなどをする場合、カウンタ下がオープンなタイプの方が使い勝手が高まります。足元の空きスペースに合わせて収納ラックや収納ボックスなどを設置して、自分好みの洗面スペースに仕上げるのも素敵ですね。

長に合わせて収納で空間をワンルームから半独立室や独立個室へと間仕切ることができ。また、最近では在宅ワークが広まり、自宅に仕事スペースを設けるケースも増えています。PCや資料などをさっと仕舞える場所があれば、オン・オフの切り替えがスムーズ。専用の引出しや棚、ワゴンなどを整えるのが有効ですが、自分の好きなモノを飾るのもおすすめです。お気に入りのモノが目に入ると気持ちにゆとりが生まれ、仕事もパワーアップしそうです。

畳分にも。この大量のモノをいかに使い勝手良く納めるか。それには生活シーンを思い描きながらの計画が必須になります。

たとえば、入浴のシーン。まずは脱いだ衣類を洗濯するためのランドリーボックスを足元にその上にタオルや家族一人ひとりの下着類を分けて仕舞える引出しを設けて、入浴後のルームウェアなどを置けるオープン棚を配置。そんなシステムチックな収納なら、空間もすっきりと片付きやすく、入浴前後の動作がスムーズに行なえます。

また、デンタル用品や化粧品類は、洗面化粧台にまとめて収納するのが効率的です。収納棚を内蔵したミラー扉や洗面カウンタ下にキャビネットがあるタイプがおすすめです。とくにカウンタ下の収納は、高さのあるモノが納められ、奥まで見渡しやすいつり出しタイプが便利です。

グなどの小物も一箇所にまとめておけば、お出掛けのコーディネートとのチェックもスムーズで、親子や夫婦での洋服・小物類の貸し借りもしやすくなります。また、衣類だけでなく季節ごとの寝具や家電などの収納場所を兼用するのもおすすめです。注意したいのは物置化してしまうこと。まとまった広さのある「ファミリークローク」のような収納スペースは、いろんなモノを仕舞いやすい反面、取り出しにくさを招いてしまうケースもあります。人の通り道を確認しておくこと、収納するモノそれぞれの置き場、モノの指定席を決めておくことが肝心です。

自分らしく楽しむ。パーソナル収納

自分の持ちモノは身近に置いておきたい、お気に入りの洋服やグッズに囲まれて過ごせるような部屋にしたい…。そんな想いを持つ人も多いのではないのでしょうか。

とくに洋服好きの憧れなのが「ウォークインクローゼット」。

ブティックのようにワードローブが眺められ、コーディネートを考えながらワクワクするようなスペースが理想ですね。ポイントは機能面を重視しながら、おしゃれ感をプラスすること。寝室に直結する場合は、トータルなインテリアコーディネートを意識しましょう。収納スペースでありながら、そこで過ごす時間が楽しみになる場所づくりを目指してはいかがでしょう。自分の空間で夢を広げると言えば、子ども部屋も同じです。成長とともに持ち物も好みも変化していくので、収納にも融通性が大切。とくに学童期くらいまでは、自分のモノを自分で整理する、片付け方を身につけるという子育てをサポートするような収納を考えたいものです。

たとえば、何でもたくさん仕舞えるのではなく、ミニマムな収納スペースからスタートするのも一案。小さなチェストや棚一つをどうすれば効率よく使いこなせるか、そんなことから工夫するチカラや問題解決力が育まれそうです。

子ども部屋をきょうだい共用のワンルームにするなら、可動式収納もおすすめ。子どもの成



可動間仕切り収納「ヴァリエス」を使って子ども部屋を半独立型に。個室が必要な時期になれば、さらに「ヴァリエス」を動かして、独立した2部屋にすることが可能です。



仕事の資料や文具類はカウンタ下の引き出しにすっきりと収納。上部のオープン棚にお気に入りのグッズをディスプレイして自分らしい空間に。(GM谷町四丁目／大阪府)



「ファミリークローク」内部に可動式の棚をプランニング。洋服や小物の増減、種類の変化にスムーズに対応できるようにしています。(GM池下ザ・タワー／愛知県)



寝室と一体化した「ウォークインクローゼット」。シースルーのスライドドアで空間の圧迫感を抑えながらインテリア性を高めています。(GM池下ザ・タワー／愛知県)